

日本の屋根付き橋の全国調査とその概要

The Nationwide Research and Summary on Covered Bridges in Japan

長谷川 英男** 伊東 孝*** 市古 太郎****

By Hideo Hasegawa, Takashi Itoh, Taro Ichiko

要 旨

英語で Covered Bridge といわれる屋根付き橋は、アメリカ、カナダでは今でも郊外部や農村部で現役の道路橋として使われている。中には鉄道橋として使われているものもある。ヨーロッパにもリアルト橋、ヴェッキオ橋（ともにイタリア）、パルトニー橋（イギリス）などの屋根付き橋が地域のシンボルや歴史的な構造物として親しまれている。日本では、古い社寺仏閣にある屋根付き橋が、宗教施設のひとつとして、大切に保存されている。

本研究は全国的に現存数が少なく、歴史・民俗的にも貴重な屋根付き橋に注目した。日本における屋根付き橋の研究事例は少なく、その全貌も明らかではない。本稿では、現存する屋根付き橋の全国調査の概要を紹介する。

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

日本の屋根付き橋は、社寺仏閣で見かけることが多い。九州・宇佐神宮の呉橋は、わが国ではめずらしく出入り口をふくめ四方が囲まれているが、柵格子窓が端から端まで通っている。閉鎖的な中にも開放感のある屋根付き橋である。

愛媛県喜多郡の肘川流域沿いは、全国的にも稀な生活橋としての屋根付き橋の多い地域である。これらの橋の中には、土木遺産的に重要な橋も多いが、研究事例や文献等は少ない。

日本の屋根付き橋についてふれた文献として、以下のものがあげられる。上田篤『橋と日本人』¹⁾では3橋、松村博『日本百名橋』²⁾では16橋の屋根付き橋（ダブリあり）の概要について、また出田肇『日本の屋根付き橋（四国奥伊予）』³⁾は、愛媛県に現存する屋根付き橋を地域との関わり合いなどから論じている。しかしこれらの文献からは、日本の屋根付き橋の全体像や特徴はみえてこない。

本研究は、歴史・民俗的にも貴重な屋根付き橋に着

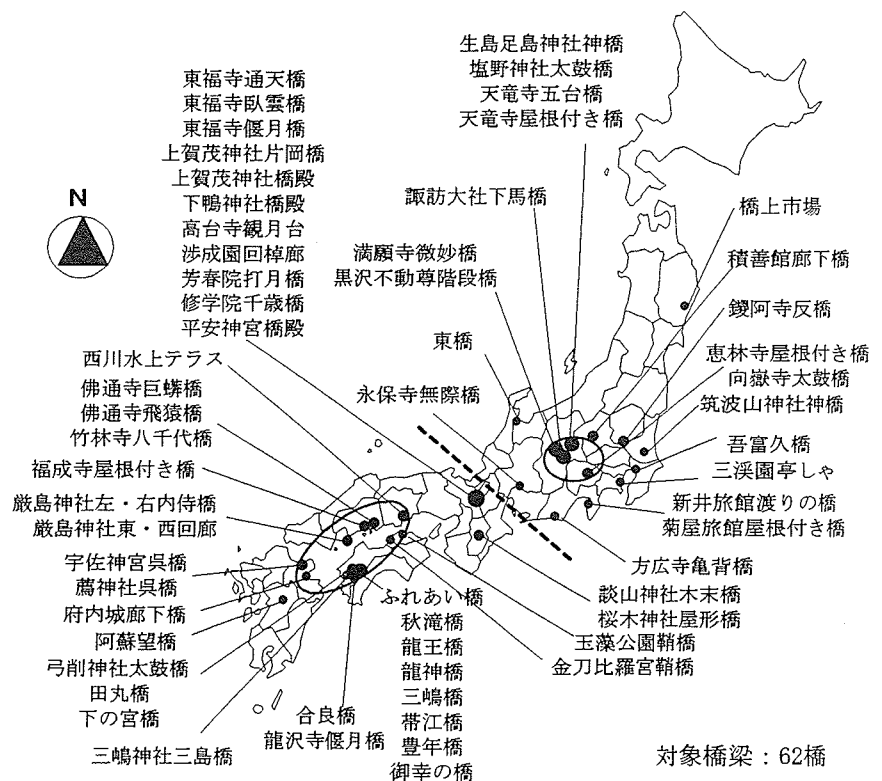


図-1 屋根付き橋の全国分布（作成：長谷川）

目し、日本における屋根付き橋の現存数やその概要を明らかにすることを目的とする。

(2) 屋根付き橋とは

『土木用語大辞典』⁴⁾には、「有蓋橋」とあり、「有蓋橋」の項には、以下のような説明がなされている。

「上部構造全体が屋根で覆われている橋。主に木橋を対象にしており、単に屋根付き橋ということもある」。

また屋根をつける目的についても言及され、「木橋の主構を雨や雪から守り、腐朽を防ぐ効果がある。スイス

*keyword：屋根付き橋、遺産調査、橋梁史

**学生会員 日本大学大学院理工学研究科

(〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1)

***正会員 工博 日本大学理工学部交通土木工学科教授

****正会員 博（都科） 日本大学理工学部交通土木工学科助手

やアメリカ東部には150年以上経過したものが多数あって、現在も荷重制限付きで供用されている…」⁵⁾といわれる。

日本の屋根付き橋は、葎橋・鞘橋・呉橋・橋殿・廊下橋・屋形橋など、多様なよばれ方をしている。本稿では、これらの橋を総称して「屋根付き橋」とよぶ。

屋根付き橋は、屋根があり、高さもあることから、景観的なシンボルになりやすい。まためづらしい故に、一度見ると印象に残るので、屋根付き橋は、地域の景観的・心理的シンボルになり、ランドマーク施設としても貴重である。

(3) 屋根付き橋の位置づけ

橋は主に、「土木構造物」として位置づけられるが、対象とする屋根付き橋の中には、厳島神社の回廊橋や上賀茂・下鴨神社の橋殿のように「建築物」として位置づけられている橋もある。

ここでは、橋に屋根があることや橋の利用形態の多様性などから、屋根付き橋を「建築物」と「土木構造物」との中間構造物として位置づけた。

2. 調査方法と結果の概要

(1) アンケート調査と回答結果

屋根付き橋の現存数を把握するため、全国の47の教育委員会に屋根付き橋の有無や文化財指定などについてアンケート調査をおこなった。

教育委員会を対象にしたのは、事前調査で、①屋根付き橋の多くは人道橋で橋長が短く、橋梁台帳に記載されていない場合が多いこと、②屋根付き橋が社寺仏閣に多く現存し、建造物文化財や民俗文化財として指定されている場合が多いためである。

これとは別に、各種文献、ヒアリング調査などから、現存する屋根付き橋の所在地が明らかな市町村(39)の教育委員会に対しても、同様なアンケート調査をおこなった。

アンケートの回答数(回答率)は、都道府県29通(61.7%)、現存が明らかな市町村30通(76.9%)であった。合計すると59通(68.6%)であり、高い回答率が得られた。

このアンケートの回答例の中には、以前存在した福島県の会津若松城廊下橋や島根県の松江城御廊下橋の2橋についての回答も得られた。

表-1 屋根付き橋一覧(所在地別・分類別・創架年別) (作成:長谷川)

No.	橋名	所在地	竣工年/創架年	構造	橋長	スパン数	桁材	屋根形式	分類
1	橋上市場	岩手県釜石市	1957/1957	連続桁	109.4	9	RC	切妻	生活橋
2	筑波山神社神橋※	茨城県つくば市	1633/1633	単純桁	7.8	1	木	切妻	神社橋
3	鍬阿寺反橋※	栃木県足利市	1855/不明	単純桁	7.8	1	木	唐破風	寺院橋
4	積善館廊下橋※	群馬県中之条町	1936/1881以前	トラス桁	12.6	1	木	切妻	生活橋
5	吾富久橋※	千葉県千葉市	1991/1991	単純桁	9.7	1	RC	ドーム	公園橋
6	三溪園亭しゃ※	神奈川県横浜	1917/1917	連続桁	13.0	3	RC	唐破風	庭園橋
7	恵林寺屋根付き橋※	山梨県塩山市	1911/不明	連続桁	10.4	6	木	唐破風	寺院橋
8	向嶽神社太鼓橋※	山梨県塩山市	不明/1724以前	連続桁	5.8	3	木	切妻	寺院橋
9	東橋	富山県新湊市	1992/1992	単純桁	20.2	1	鋼	切妻/方形	公園橋
10	塩野神社太鼓橋※	長野県上田市	1788/1788	単純桁	9.3	1	木	切妻	神社橋
11	生島足島神社神橋※	長野県上田市	1940/1859以前	連続桁	6.9	3	RC	唐破風	神社橋
12	諏訪大社下馬橋※	長野県諏訪町	1736/1578	連続桁	10.0	4	木	切妻	神社橋
13	天竜寺五台橋※	長野県丸子町	不明/不明	連続桁	10.2	3	木	切妻	寺院橋
14	天竜寺屋根付き橋※	長野県丸子町	1998/1998	単純桁	6.6	1	木	切妻	寺院橋
15	満願寺微妙橋※	長野県穂高町	1906/1556以前	連続桁	13.3	5	木	切妻	寺院橋
16	黒沢不動尊階段橋	長野県三郷村	不明/不明				木	切妻	寺院橋
17	方広寺亀背橋※	静岡県引佐町	1960頃/1387	トラス桁	25.6	1	鋼	切妻/切妻	寺院橋
18	新井旅館渡りの橋※	静岡県修善寺町	1899/1899	連続桁	8.0	5	木	切妻	生活橋
19	菊屋旅館屋根付き橋	静岡県修善寺町	不明/不明	トラス桁					生活橋
20	永保寺無際橋※	岐阜県多治見市	1987/1314	連続桁	16.7	5	木	切妻	寺院橋
21	上賀茂神社片岡橋※	京都府京都市	1628/1628	単純桁	4.1	1	木	唐破風	神社橋
22	上賀茂神社橋殿※	京都府京都市	1628/1628	連続桁	11.2	4	木	入母屋	神社橋
23	下鴨神社橋殿※	京都府京都市	1629/1629	連続桁			木	入母屋	神社橋
24	平安神宮橋殿※	京都府京都市	1913/1913	連続桁	29.0	12	石	唐破風/方形	神社橋
25	東福寺通天橋※	京都府京都市	1961/1291以前	連続桁	27.0	9	RC	切妻	寺院橋
26	東福寺臥雲橋※	京都府京都市	1847/1291以前	連続桁	19.2	5	木	切妻	寺院橋
27	東福寺偃月橋※	京都府京都市	1603/1291以前	連続桁	19.3	5	木	切妻	寺院橋
28	芳春院打月橋	京都府京都市	不明/1602	連続桁			木	切妻/唐破風	寺院橋
29	高台寺観月台※	京都府京都市	不明/1620頃	連続桁	18.0	10	木	切妻/唐破風	寺院橋
30	涉成園回廊橋※	京都府京都市	不明/1650頃	連続桁	11.1	3	木	唐破風/唐破風	寺院橋
31	修学院千歳橋※	京都府京都市	1827/1827	単純桁	8.7	1	石	切妻/方形	庭園橋
32	談山神社屋形橋※	奈良県桜井市	1979/1791以前	連続桁	12.7	3	RC	切妻	神社橋
33	桜木神社木末橋	奈良県吉野町	1970頃/1700	単純桁		1	鋼	切妻	神社橋
34	西川緑道水上テラス	岡山県岡山市	1975/1975	連続桁	14.0	3	RC	方形	公園橋
35	佛通寺巨蟬橋※	広島県三原市	1988/1397	単純桁	14.7	1	木	切妻	寺院橋
36	佛通寺飛猿橋※	広島県三原市	1988/1397	単純桁	9.2	1	木	切妻	寺院橋
37	福成寺屋根付き橋	広島県東広島市	1994/不明	連続桁	16.0	4	RC	切妻	寺院橋
38	厳島神社東回廊	広島県宮島町		連続桁			木	切妻	神社橋
39	厳島神社西回廊	広島県宮島町	不明/	連続桁			木	切妻	神社橋
40	厳島神社左内待橋	広島県宮島町	1287年以前	連続桁		2	木	切妻	神社橋
41	厳島神社右内待橋	広島県宮島町		連続桁		2	木	切妻	神社橋
42	竹林寺八千代橋※	広島県河内町	1958/1958	単純桁	7.8	1	木	切妻	寺院橋
43	玉藻公園鞘橋※	香川県高松市	1971/1563以前	連続桁	31.0	10	木	切妻	城郭橋
44	金刀比羅宮鞘橋※	香川県琴平町	1869/1700以前	トラス桁	23.6	1	木	切妻/唐破風	神社橋
45	弓削神社太鼓橋※	愛媛県内子町	1951/不明	連続桁	22.0	4	木	切妻	神社橋
46	田丸橋※	愛媛県内子町	1944/1944	方杖式	15.0	1	木	切妻	生活橋
47	下の宮橋※	愛媛県内子町	1994/1994	方杖式	10.6	1	木	切妻	生活橋
48	龍沢寺偃月橋※	愛媛県城川町	1969/1849	単純桁	9.2	1	木	切妻	寺院橋
49	合良橋※	愛媛県城川町	1990/1990	単純桁	6.0	1	木	切妻	公園橋
50	三嶋神社三島橋※	愛媛県野村町	1993/1940	連続桁	10.1	2	RC	寄棟	神社橋
51	御幸の橋※	愛媛県河辺村	1886/1773	単純桁	8.3	1	木	切妻	神社橋
52	三嶋橋※	愛媛県河辺村	1923/1923	方杖式	14.8	1	木	入母屋	生活橋
53	豊年橋※	愛媛県河辺村	1951/1951	単純桁	2.7	1	木	切妻	生活橋
54	帯江橋※	愛媛県河辺村	1952/1952	トラス桁	15.8	1	木	切妻	生活橋
55	龍神橋※	愛媛県河辺村	1990/1990	単純桁	8.0	1	木	切妻	公園橋
56	ふれあい橋※	愛媛県河辺村	1992/1992	単純桁	25.8	1	PC	寄棟/切妻	公園橋
57	龍王橋※	愛媛県河辺村	1997/1997	単純桁	25.4	1	鋼	切妻	公園橋
58	秋滝橋※	愛媛県河辺村	1997/1997	単純桁	4.0	1	木	切妻	公園橋
59	宇佐神宮呉橋※	大分県宇佐市	1876/1301以前	連続桁	24.7	5	木	唐破風	神社橋
60	薦神社呉橋※	大分県中津市	1850/1433以前	連続桁	10.7	4	木	唐破風	神社橋
61	府内城廊下橋※	大分県大分市	1997/1600以前	連続桁	21.3	7	木	切妻	城郭橋
62	阿蘇望橋	熊本県波野村	1999/1999	トラス桁	39.9	1	木	切妻	生活橋

※現地調査で簡易測量や写真撮影を実施した橋

*鋼材が補強材として使用されている

また長野県の諏訪大社布橋は、布橋と名付けられているが、現地調査から、水上の施設ではなく境内の回廊であるため、除外した。

(2) 現地調査概要

アンケート回答結果や文献などを元に合計49橋(79.0%)の現地調査をおこなった。

現地調査をおこなった理由は、①アンケート回答結果

などでは、屋根付き橋に関する知見や資料が十分でないため、②対象となる屋根付き橋が小規模の人道橋で、現地しか入手できない資料があるため、③現地のヒアリング調査などから、調査対象外の屋根付き橋の知見を得るためである。

屋根付き橋の現地調査では、橋の現存確認および橋長や幅員などの簡易測量、橋の形態・意匠調査、立地条件・利用状況などの把握、写真撮影も実施している。

(3) 調査結果

アンケート調査および現地調査などから、62 の屋根付き橋の現存が確認できた。これは、従来知られていた数の約倍である⁽¹⁾。62 橋の一覧を表-1 に、分布図を図-1 に示す。

表-1 には、橋の所在地や構造・桁材、屋根形式などを示した。橋長などの数値は、簡易測量(47 橋)の実測値を記載している。簡易測量をしてない橋は、アンケート調査や文献などで得られたデータを用いた。

現地調査において、下鴨神社橋殿(No. 23)と修学院離宮千歳橋(No. 31)は利用できない(渡れない)特別な橋であるため、簡易測量は実施できなかった。空欄部分は、アンケートの回収ができなかったり、現地調査や文献調査をしていない橋である。

3. 屋根付き橋の特徴

(1) 全国的な分布

全国分布(図-1)をみると、東日本には 20 橋が現存し、長野県と山梨県の甲信地方に 9 橋と多い。西日本に 42 橋が現存し、瀬戸内海に面している地域に 28 橋とまとまっている。

県別では、生活橋や公園橋などの生活環境に関わる橋の多い愛媛県が 14 橋、古い社寺仏閣の多い京都府 11 橋、長野県 7 橋、厳島神社の 4 つの橋をふくめると広島県に 8 橋と多い。

(2) 創架年と竣工年

4 つの屋根付き橋がある厳島神社回廊橋は、現存する遺構として最も古い橋である。この回廊橋は、『一遍聖人絵伝』(1287)⁽⁶⁾には現在の回廊の原型になるものが描かれていることから、創架年を 1287 年以前とした。

厳島神社回廊橋や宇佐神宮呉橋の 2 橋は、創架年が古いので神社にある屋根付き橋の起源と関係があると推察される。また 2 つの橋は瀬戸内海に面しており、瀬戸内海地方に屋根付き橋の多い(28 橋)ことの傍証になると考えられる。

厳島神社回廊橋や東福寺 3 橋などをふくめると、1400 年以前にかけられた橋は 9 橋あり、このうち神社にある橋が 2 橋、寺院にある橋が 7 橋である。この 7 橋はいずれも、臨済宗の古

刹である東福寺・永保寺・佛通寺・方広寺にかかっていることから、寺院橋としての屋根付き橋と臨済宗寺院には何らかの関わりがあると考えられる。これらを含めて、臨済宗や曹洞宗などの禅宗寺院に現存している橋は 14 橋と多く、全体の 22.6%を占めている。

1400 年代創架の橋は薦神社呉橋の 1 橋、1500 年代は 3 橋、1600 年代 8 橋、1700 年代 6 橋、1800 年代 5 橋、1900 年代 20 橋で、不明が 7 橋である。

竣工年でみると、一番古い橋は、国の重要文化財に指定されている東福寺偃月橋の 1603 年であり、次いで、1620 年頃にかけられた高台寺観月台である。この他、1600 年代に竣工した橋は 4 橋ある。1700 年代竣工の橋は 2 橋、1800 年代が 8 橋である。

1600 年代の橋が手を加えられずにそのまま現存しているとは考えがたいので、途中傷んだところの修理修繕はおこなわれたと考えられる。1850 年竣工の薦神社の呉橋(No. 60)は、白蟻の被害で主桁がはずれていることや橋面の痛み具合から、竣工当初のものと考えられる。1869 年竣工の金刀比羅宮鞘橋(No. 44)は、祭事のときにしか渡れず、1881 年竣工の積善館廊下橋(No. 4)や 1899 年竣工の新井旅館渡りの橋(No. 18)は旅館内の建物をつぶ廊橋で、今も大切に利用されている。

このような事例から考えると、屋根をつけることによって木橋は 100 年ぐらいはもつことがわかる。しかしいづれも歩行者用である。

木橋の寿命はふつう 20 年といわれる。条件によって変わるが、屋根をつけることによって少なくとも 2~5 倍のびることがわかる。著者らがアメリカのバーモント州で確認した橋には、道路橋で 200 年近い橋が現存している⁽²⁾。マディソン郡(アイオワ州)をふくめ、カナダの国境に近いところは寒冷地域なので、日本と違い湿度が低く、虫もつかないので、橋が長持ちする⁽³⁾。

(3) 構造型式と桁材

橋の構造型式の確認できた 61 橋は、表-2 のように整理でき、連続桁が一番多く 32 橋、単純桁 20 橋、トラス 5 橋、方杖 3 橋、トラスアーチ 1 橋となる。近年新設された愛媛県河辺村のふれあい橋や千葉市吾富久橋は、PC 桁構造である。

桁材別にみると、木材を使用している橋が、46 橋と

表-2 屋根付き橋の構造別・桁材別平均橋長(作成:長谷川)

構造	木			石			コンクリート			鋼			計		
	橋梁数	データあり	平均橋長(m)	橋梁数	データあり	平均橋長(m)	橋梁数	データあり	平均橋長(m)	橋梁数	データあり	平均橋長(m)	橋梁数	データあり	平均橋長(m)
単純桁	14	14	7.53	1	1	8.70	2	2	17.75	3	2	22.80	20	19	10.27
連続桁	23	17	14.46	1	1	29.00	8	8	26.14				32	26	19.27
トラス	4	3	22.77							1	1	25.60	5	4	23.43
方杖式	3	3	13.47										3	3	13.47
トラスアーチ	1	1	23.60										1	1	23.6
形式不明	1												1		
計	46	38	13.17	2	2	18.85	10	10	24.46	4	3	23.73	62	53	16.11

多く、石材2橋、RCやPCなどコンクリート材を主とする橋が10橋、鋼材を使用している橋が4橋となっている。

(4)「反り度」の提案

屋根付き橋の名称をみると、構造型式は桁橋なのに「〇〇反橋」「〇〇太鼓」と名付けられているものがあることから、太鼓橋と反橋の違いを考えてみた。

a) 文献にみる太鼓橋と反橋

一般的に太鼓橋は、反橋より反りがきつい橋と考えられる。ちなみに『広辞苑』には、太鼓橋は「半円形に反った橋」⁷⁾、反橋は「中央の高く弓状にそった橋」⁸⁾とある。『広辞苑』によると太鼓橋と反橋とのちがいは、「半円形」と「弓形」の形状にある。

また『橋梁用語辞典』⁹⁾には、以下のような説明がなされていた。太鼓橋は、「通路となる路面が半円形に反り上がった橋」。これに対し反橋は、「路面が橋軸方向に上に凸な曲面をなし、径間の中央で、反り上がっている橋」。この説明にも、太鼓橋と反橋とのちがいは、半円形と弓形とにあることがわかり、興味深いのは英語表記である。併記されている英語は、いずれも「humped bridge, hump back bridge, semi-circular bridge」で区別がない。「太鼓橋」と「反橋」との区別は、日本的ないしは東洋的な区別であることがうかがえる。

b) 反り度

アーチ構造物のアーチの扁平度を示す指標として、ライズ比という考え方がある。ライズ比¹⁰⁾とは、構造形態(アーチ構造)のアーチ高さ(ライズ)とスパンとの比(ライズ/スパン)のことをいう。

太鼓橋や反橋は桁構造であるため、ライズ比とは区別する必要があると判断し、「反り度」を考えた。屋根付き橋の中には、反りを持たせている橋が多く、渡りづらい橋もあった。また、太鼓橋と名付けられた橋より反りが弱いのに〇〇太鼓橋と命名されていたり、その逆もあった。

太鼓橋と反橋の反り(アーチ)部分を示す指標として、「反り度」を図-2のように設定した。「反り度」とは、構造形態とは無関係で、橋面の反り(シルエット)や歩行者のわたり易さに着目した指標といえる。

側面写真および入手図面から算定した反り度の値や現地で体験したわたり易さなどから、反り度0.1以上を太

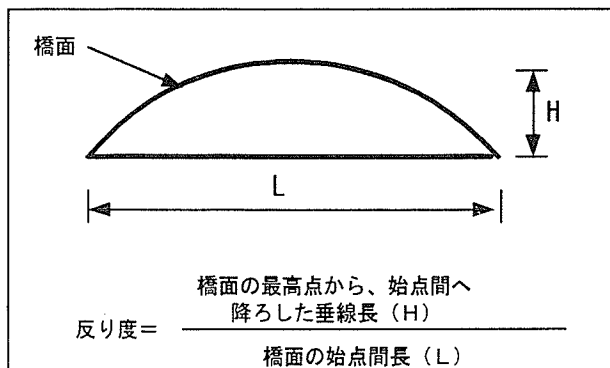


図-2 反り度の定義

鼓橋、0.1未満を反橋と決めた。太鼓橋の例として、反り度が0.10の永保寺無際橋(No.15)を写真-1に示す。

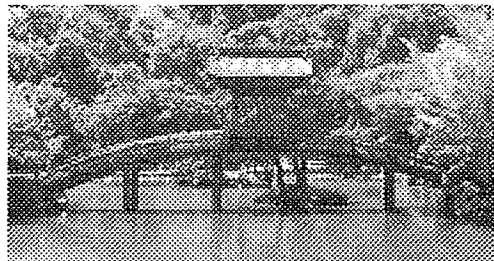


写真-1 永保寺無際橋側面部

(撮影：長谷川, 1999.8.1)

「反り度」を設定して、太鼓橋と反橋とを区別したので、類似語である「めがね橋」との違いも考えてみた。

太鼓橋の主桁の多くは、縦横に組まれた木造の格子桁などで橋面下に構造材が組まれ、視覚的に煩雑になるのに対し、めがね橋は石造でアーチリングの下には何もなく、視覚的にスッキリしていることが特徴である。「反り度」は橋面のシルエットライン(外側曲線)に着目しているのに対し、「めがね橋」はアーチ形状のリング石シルエットライン(内側曲線)を重視していることになる。上下のシルエットラインの相違はあるが、きっちり把握できるそれぞれのシルエットラインを重視している点に共通性がある。

4. 屋根付き橋の分類

屋根付き橋を管理する関係機関や架設地点の地域特性などから、屋根付き橋を次の6つに分類できる。

- ①神社境内の屋根付き橋(神社橋)
- ②寺院境内の屋根付き橋(寺院橋)
- ③城郭施設としての屋根付き橋(城郭橋)
- ④庭園内の屋根付き橋(庭園橋)
- ⑤生活橋としての屋根付き橋(生活橋)
- ⑥公園内の屋根付き橋(公園橋)

以下では、分類毎の特徴を述べるとともに、典型的な事例(屋根付き橋)をあげて説明している。

(1) 神社境内の屋根付き橋(20橋)

神社境内の池に架けられた橋や、神社へ向かう参道に架けられた橋、建物と建物を結ぶ回廊・廊橋として利用されている橋を神社境内の屋根付き橋とした。神社橋は20橋が確認できた。

神社境内の屋根付き橋の特徴として、地域性やシンボル性を象徴するような橋が多く、祭事や特定な日にしか渡れない橋がある。現地調査した橋の中で、筑波山神社神橋(No.2)・生島足島神社(No.11)・金比羅宮鞘橋(No.44)・諏訪神社下馬橋(No.12)・宇佐神社呉橋(No.59)の5橋は、祭事の時しか一般の人が利用できず、橋に特別な意味が込められている。薦神社呉橋(No.60)は、老朽化のため渡ることができないが、橋自体は豪華でダイナミックな造りである。早急な保存対策が望まれる。

屋根付き橋をもつ神社の格式を調べると、総本社とい

ってもいいような格の高いものが多い。これは屋根付き橋がどこの神社でも架けられるものではなく、数が限られていることを意味する。

京都にある屋根付き橋は、創架年の古いものも多く、貴重な文化財建造物として保存されている。屋根付き橋は、古くから日本の建造物文化のひとつとして存在していたことがわかる。京都市以外の府内には屋根付き橋はひとつも現存せず、寺院・神社橋の11橋すべては、京都市内に群として現存している。

a) 金刀比羅宮鞘橋¹¹⁾ (No. 44)

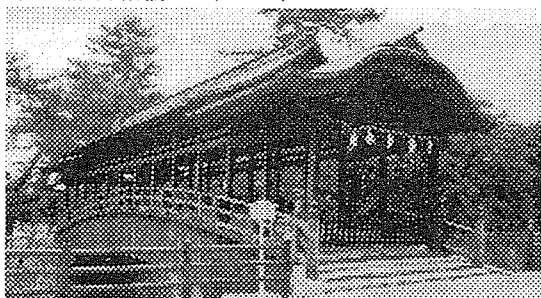


写真-2 琴平町金刀比羅宮鞘橋

(撮影：長谷川, 1999. 8. 4)

香川県琴平町象頭山にある金刀比羅宮は、「讃岐の金比羅さん」とよばれ、「海の神様」「農業殖産」等の神として、広く庶民に信仰されてきた。南神苑神事場と西側の参道の間を流れる金倉川にかかる刀の鞘のように反った橋が、鞘橋である(写真-2)。

橋は、橋長 23.6m・幅員 4.6m。銅葺きで、三棟の段付き屋根に覆われ、両端部の屋根は唐破風で雲形の妻飾りを持ち、中央部はやや反りのある切妻屋根である。遠くから見ると社殿かと見違えるほどの規模で、木造屋根付き橋の中では、橋長 23.6m と最大級の建造物である。

明治2年に再建された鞘橋は、この位置より下流側にある「一の橋」の位置にかかっていた。明治37年、普通寺師団の砲車を通すため現在地に移築されるまでは、金刀比羅宮の参道上にある橋として賑わっていた。移築後は秋の祭事の時だけ御神輿を渡す橋になり、一般の人は通行できなくなった。神事用の橋に生まれかわり、地域住民の信仰の橋として尊重されている。

鞘橋の管理・保守は金刀比羅宮の宮大工が携わり、平成9年、国の有形文化財として登録された。

b) 宇佐神宮呉橋 (No. 59)

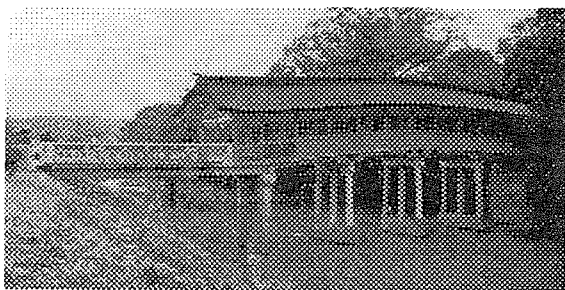


写真-3 宇佐市宇佐神宮呉橋

桁橋は、河川改修で川幅が拡幅されたため設置された。

(撮影：伊東, 1999. 10. 7)

大分県北部に位置する宇佐神宮は、全国八幡宮の総本宮として有名である。呉橋は、宇佐神宮の西側を流れる寄藻川にかかる。橋長 24.7m・幅員 3.6m、唐破風・檜皮葺きの屋根をもつ(写真-3、橋長には桁橋は含まず)。

呉橋の創架年は、最初に記録のある「益永文書・到津文書」¹²⁾の正安3年(1301)とした。詳しい途中経過は不明だが、明治9年と昭和12年に修築され、今日に至る。

(2) 寺院境内の屋根付き橋 (20 橋)

神社境内の屋根付き橋と同様に、寺院境内の庭園池、または参道を横切る河川にかかる橋を寺院など、寺院が所有する屋根付き橋は20橋ある。

寺院境内の屋根付き橋として、永保寺無際橋 (No. 20) や橋形状に特徴のある長野県満願寺微妙橋 (No. 15) の屋根付き橋について説明する。

a) 永保寺無際橋¹³⁾ (No. 20)



写真-4 永保寺無際橋と観音堂

(撮影：長谷川, 1999. 8. 1)

京都南禅寺を本山とする永保寺は、岐阜県の東部多治見市虎溪山町にある臨済宗の禅宗寺院である。この永保寺観音堂前の庭園にかかる橋が、無際橋である。

永保寺は、鎌倉時代末期の1313年、僧侶夢窓礎石によって草庵が建てられたのが始まりである。礎石は、優れた石立僧(作庭家)で、京都の西芳寺・天竜寺・山梨県恵林寺など、多くの名庭園を作庭している。永保寺庭園は夢窓国師初期の作庭のひとつで、無際橋をふくめ、国の名勝にも指定されている。

無際橋は、橋長 16.7m・幅員 1.7m の反りのある木造太鼓橋で、中央部に切妻方形屋根の亭しやを設けた庭園橋である(写真-4)。永保寺建立の翌年の1314年に架設され、その後、何度も架け替え工事がなされたが、設営当時の様式が今でも保たれていると思われる¹⁴⁾。

永保寺庭園造りは、虎溪山の自然地形や景観を借景としている。礎石は庭園内の観音堂・岩山・屋根付き橋・池などを巧みに構成し、屋根付き橋が、風景の主景になるよう庭園のほぼ中央に配し、太鼓橋に亭しやを設けて、庭園の主役として演出させた。

亭しやの高欄は、腰掛けと一体的につくられており、四阿的な機能ももたせている。庭園は回遊式庭園なので、屋根付き橋を単に風景として見るだけでなく、橋上で休息もできるように腰掛け付きの亭しやを設けたと思われる。橋と庭との関係は、哲学的に言えば、相互に「見る」「見られる」ことによって「庭の全体を感じる」、正・

反・合の弁証法的な関係になっている

永保寺庭園の作庭後、夢窓礎石は他の庭園にも同様に、太鼓橋に亭しやを設けた橋を架設している¹⁵⁾。

b) 満願寺微妙橋¹⁶⁾ (No. 15)

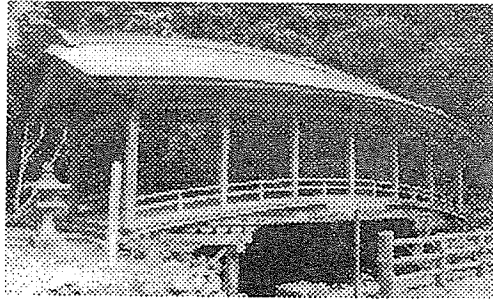


写真-5 穂高町満願寺微妙橋

(撮影: 長谷川, 1999. 10. 6)

長野県の北西部にある満願寺は、奈良県長谷寺を本山とする真言宗豊山派の寺院である。満願寺に向かう参道入口部にある屋根付きの反橋が微妙橋である。

橋長 13.3m・幅員 3.7m の切妻屋根の橋で、屋根全体が、橋面と同様、橋軸方向にアーチ状に反っている(写真-5)。切妻端部には勾配が入れられ、正面からながめると鷲が羽を広げて子供をかばうようなイメージがある。持ち送り・葺股・高欄などにも意匠的な細工がみられる。

微妙橋の両端には四角の台枳(斜材入り)が築かれ、ラーメン橋の橋台のような造りになっていることも本橋の大きな特徴である。橋床板の裏にお経が書かれていることから、「お経橋」ともよばれる。

微妙橋の正確な創架年は不明だが、弘治2年(1556)の満願寺勧進状¹⁷⁾に「御堂の前に川あり、三途の河と号す、ここに橋あり」と記されていることから、1556年以前から橋があったと推測でき、創架年を1556以前とした。また江戸後期文政7年(1824)、松本藩主宛に「微妙橋大修理の供養会を行いたい」との書面が残されている¹⁸⁾。この橋は善人が渡る橋とされ、またすぐ下の橋は畜生橋と称し、悪人が渡る橋とされていた。現在の橋は、明治39年(1906)、壇家や地域住民が寄付金や材料を提供して、架け替えられたものである。

(3) 城郭施設としての屋根付き橋(2橋)

城内の濠に架けられた屋根付き橋は、廊下橋や廊橋とよばれるが、ここでは、城という城郭(軍事)施設の意味合いを込めて、城郭施設としての屋根付き橋とした。

城郭型の建設目的は、城主や使者などの利用者が橋の渡るのを見透かれず、また矢や弾丸から身を守るため側面に目隠し用の壁が設けられたことに大きな特徴がある。入口部に扉が設けられていることから、「門」としての機能も考えられる。

城郭型には、玉藻公園鞘橋(No. 43)と府内城廊下橋(No. 61)の2橋が確認できた。また前述したように、会津若松城や松江城にも屋根付き橋が架設されていたとのアンケート回答があった。その後の文献調査で、松本・高知・岡崎・高松・二条・福井・彦根・盛岡・和歌山の

各城にも、屋根付き橋の存在していたことが判明した。

a) 玉藻公園鞘橋(No. 43)

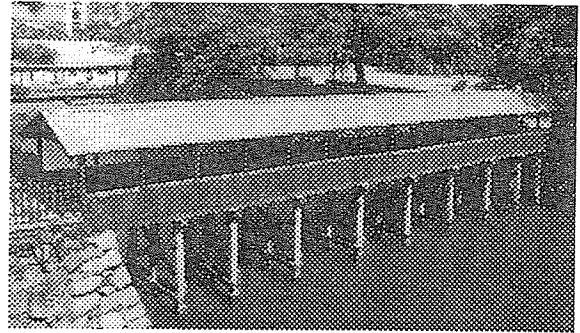


写真-6 高松市玉藻公園鞘橋

(撮影: 長谷川, 1999. 8. 5)

玉藻公園は、香川県高松市の高松城跡の公園である。高松城(別名、玉藻城)は、高松市の北岸に面し、海水を導いた三重の濠をもつ城であった。天正16年(1588)、生駒親正が築城を開始し、2年後の18年に完成した。

天守閣をもつ本丸は、北側の二の丸と「欄干橋」で結ばれ、橋を落とすと浮き城になった。江戸時代の中期絵図「高松御城図」¹⁹⁾には、屋根付き橋が描かれている。橋には腰板があり、屋根材は板葺と推察される。図面から判断すると、欄干橋の位置は後の鞘橋にあたるので、鞘橋とみなせる。なお「鞘橋」の名称は、長い橋に屋根がつき、刀の鞘のようにみえたので、鞘橋とよばれるようになったのではなかろうか。前述した金刀比羅宮鞘橋も、同じように見られたと考えられる⁴⁾。

現在の鞘橋は、橋長 31.0m・幅員 3.6m、銅葺き屋根、入口部に扉を設けた屋根付き橋である(写真-6)。旧鞘橋は、昭和46年の台風で屋根が破損した。すでに柱などの木材は老朽化し、白蟻や船虫などの被害を受けていたため、橋は架け替えられたが、花崗岩の橋脚や基礎石はしっかりしていたので、そのまま利用された。

当地は海に近く、台風が多いので、鞘橋には前述した防御機能の他、潮風をしのぎ、暴風雨対策もある。しかし江戸期の鞘橋は、腰板しかないので、城郭施設としての屋根付き橋の特徴である目隠し機能には欠けていた。

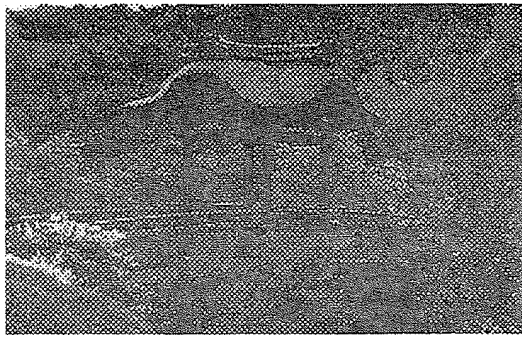
(4) 庭園内の屋根付き橋(2橋)

三溪園亭しや(No. 6)や修学院離宮千歳橋(No. 31)は、庭園内の屋根付き橋に分類した。理由は、ある特定の場所(個人の別荘や自宅)にかけられ、限られた人しか渡れない橋だったからである。

a) 三溪園亭しや(No. 6)

三溪園は、横浜市中区本牧に位置し、実業家の原三溪によってつくられた。広さ 17.5 万 m² の日本庭園で、明治39年に公開され、庭園内には鎌倉や京都から集められた歴史的建造物が巧みに配置されている。亭しやは、内苑の池にかけられている(写真-7)。

亭しやは、臨春閣を和歌山県から移築した大正6年に新築され、臨春閣の浪華の間や二階の村雨の間からの眺めに配慮されている。庭園は回遊式で、四面唐破風屋根の亭しやは、360度、どこから見ても豪華な雰囲気をつ



写真－7 横浜市三溪園亭しゃ

(撮影：長谷川 1999. 12. 4)

だよわせる。庭園の創始者である原三溪は夢窓礎石作の庭園を好み、苔寺（西芳寺）や天竜寺など、多くの庭園に足を運んでいる。この庭園も、夢窓礎石がよくしたように屋根付き橋を庭園のシンボルにしている。

(5) 生活橋としての屋根付き橋 (10 橋)

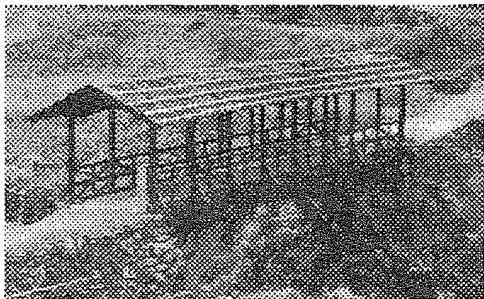
日常的に利用している屋根付き橋を生活橋とした。生活橋は 10 橋あり、農道橋としての利用が河辺村の三嶋橋 (No. 52)・帯江橋 (No. 54)、内子町の田丸橋 (No. 46)・下の宮橋 (No. 47) の 4 橋、個人所有の河辺村の豊年橋 (No. 53) の 1 橋、建物と建物とを結ぶ回廊もしくは廊下橋が、中之条町の積善館廊下橋 (No. 4)、修善寺町の新井旅館渡りの橋 (No. 18)、同町菊屋旅館屋根付き橋 (No. 19) の 3 橋である。

熊本県の阿蘇望橋 (No. 62) はアメリカのカバード・ブリッジのデザインを採用し、木造のラチストラス構造になっている。

釜石市の橋上市場 (No. 1) は、橋上に店舗が並ぶ日本唯一の橋である²⁰⁾。橋上市場は昭和 32 年に竣工、橋長 109.4m のコンクリート桁の屋根付き橋である⁽⁵⁾。

ここでは、屋根付き橋が生活の中に溶け込んでいる愛媛県内子町田丸橋と河辺村の屋根付き橋について述べる。

a) 内子町田丸橋²¹⁾ (No. 46)



写真－8 内子町田丸橋

(撮影：長谷川. 1999. 8. 6)

歴史的町並み保存運動で有名な内子町の麓川流域には、以前、6 橋以上の屋根付き橋がかかっていた。しかし水害や新橋架け替えで、屋根付き橋は消滅していった。今日では弓削神社太鼓橋 (No. 45) と田丸橋の 2 橋が残り、あらたに田丸橋 (写真－8) と同型 (方杖橋) の下の宮橋が、平成 6 年、地域住民の強い要望で架設された。下の宮橋は、農道橋として利用されるだけでなく、地域住民の憩いの場としても利用されている。

田丸橋は、橋長 15.0m・幅員 2.1m、切妻屋根をもち、方杖構造の橋である (写真－6)。昭和 19 年の竣工時、旧橋は土橋であった。昭和 18 年、麓川の氾濫のとき、下流にあった 1 スパンの方杖式屋根付き橋の「樋の口橋」が流されずにすんだ。この教訓から方杖構造の田丸橋が、地域住民の寄付でかけられた。

昭和 57 年 (1982)、田丸橋は、地域住民の要望より、トタン葺から杉皮に葺き替えた。同時に「河内の屋根付橋」として内子町の有形民俗文化財に指定された。翌 58 年、周辺 8 戸の住民が田丸橋保存会を結成させ、田丸橋の維持・管理をおこなっている。内子町は屋根付き橋を風景の点景としてとらえ、行政・地域住民が屋根付き橋を積極的に保存・再建している。

b) 河辺村の屋根付き橋²²⁾



写真－9 河辺村三嶋橋

(撮影：長谷川. 1999. 8. 6)

河辺村には 7 橋の屋根付き橋があり、三嶋橋 (No. 52)・豊年橋 (No. 53)・帯江橋 (No. 54) の 3 橋が生活橋である。

三嶋橋は、河辺村三嶋地区の河辺川にかかる橋である。大正 12 年竣工、橋長 14.8m・幅員 3.0m、入母屋屋根をもつ方杖式の橋である (写真－9)。三嶋橋は橋詰の建物と隣接してつくられ、管理は三嶋部落がおこなっている。屋根材は、平成 7 年、景観などを考慮して、行政負担でトタン葺きから杉皮に葺き替えられている。

平成 2 年の時点は、前述した 3 橋の他に、御幸の橋 (No. 51) が辛うじて残っていた。龍神橋 (No. 56) の建設 (平成 2 年) の頃から、屋根付き橋が注目されるようになり、住民の憩いの場や公園整備、観光の一環として、4 橋 (後述する) が新設された。河辺村では、新設された 4 橋と既存の御幸の橋・帯江橋・三嶋橋・豊年橋をふくめて「浪漫八橋」のキャッチ・コピーを掲げ、観光 PR の目玉にしている²³⁾。

河辺村の屋根付き橋の特徴は、御幸の橋を皮切りに、帯江橋・三嶋橋・豊年橋、ふれあい橋・秋滝橋・龍王橋まで、河辺川約 7km の間に明治・大正・昭和・平成の屋根付き橋が、群として存在していることにある。

(6) 公園内の屋根付き橋 (8 橋)

名所や地域のシンボル、観光 PR に設置された橋や、公園施設内に設けられた橋を公園橋とした。

公園橋は 8 橋あり、愛媛県で以下の 5 橋が新設された。城川町の合羅橋 (No. 49)、前述した河辺村の龍神橋 (No. 55)・ふれあい橋 (No. 56)・龍王橋 (No. 57)・秋滝

橋 (No. 58) の4橋である。

この他、千葉市吾富久橋 (No. 5)、富山県新湊市の東橋 (No. 9)、岡山市の西川緑道水上テラス (No. 34) などがある。

a) 新湊市東橋²⁴⁾ (No. 9)



写真-10 新湊市東橋

(撮影：新湊市提供)

富山県の市町村では、内外の建築家と共同で、地域のシンボルになる「かお」づくりをおこなっている。新湊市では、スペインの建築家セザール・ポルテラとともに内川に屋根付き橋 (東橋) をつくった。

橋は、屋根で覆われ、両側には四阿を設け、「渡るだけでなく、立ち止まり、時を過ごす憩いの場」という機能をもつ (写真-10)。四阿の頂部にはトップライトとスペインの伝統式モチーフである月と太陽をかたどった風見が設置されている。外装は、スペイン産の自然石が採用されており、特徴のひとつになっている。

5. まとめ

本稿で得られた知見をまとめると、次のとおりである。

①全国にある屋根付き橋は 62 橋が確認でき、分布をふくめ、ある程度の全体像を示した。

②現存する屋根付き橋の創架年や竣工年、構造や桁材などの概要を明らかにした。

③屋根付き橋を6つに分類し、それぞれについて代表的な橋を紹介した。

今後の課題としては、次のようなことがあげられる。

①屋根付き橋の起源

②屋根付き橋の創架年や橋の歴史的背景などについて信頼性のある資料作成と分析

③屋根付き橋の用途および形態的分类や意匠分析

④失われた屋根付き橋をふくめての調査・分析など。

また海外の屋根付き橋との比較研究をおこなうことも、日本の屋根付き橋の文化や特徴などを知る上で、興味のつきぬ課題といえる。

謝辞

本研究を進めるにあたり、日本大学理工学部交通土木工学科都市環境計画研究室のゼミ生、特に卒業研究をまとめた井草郷太・尾崎康一君には協力を頂いた。(株)東京鐵骨橋梁藤井郁夫氏、愛媛県内子町役場大野千代美氏には適切なお指導を授かり、貴重な示唆をうけた。また資料収集・現地調査については、関係機関、教育委員会など、多くの方々の協力を得ました。この場を借りて、敬意を表します。

【注】

- (1) 屋根付き橋に関する文献資料で、最もデータが多かったのは、「シビルネットワーク研究委員会」(日本の屋根付き橋、<http://www.civilnet.or.jp>) が作成したホームページの 32 橋であった。
- (2) たとえば、1808 年～1820 年間に架設された Pulp Mill Bridge (3 スパン、橋長 60.6m、幅員 5.4m)。
- (3) Chester Liebs 氏 (前ヴァーモント州立大学教授、ICOMOS 委員) の指摘。
- (4) 村瀬左太美『日本の木の橋・石の橋』(山海堂、p. 88、1999 年) には、鞘橋の左岸橋詰の立て看板に「こんぴら道中膝栗毛に、上を覆う屋根の鞘に納まる御代の刀のようなそり橋の表現がある」と指摘している。
- (5) 今では釜石市には欠かせない名所にもなっているが、岩手県からは、撤去の要請が出されている。日本で唯一の市場橋であるこの橋が、河川改修のため取り壊され、釜石市のひとつの生活文化が消え去ろうとしている。

【引用文献】

- 1) 上田篤『橋と日本人』岩波新書、pp.190-200、1984 年
- 2) 松村博『日本百名橋』鹿島出版会、pp.115-116、141-142、201-202、221-222、271-272、1998 年
- 3) 出田肇『日本の屋根付き橋 (四国奥伊予)』地域環境研究所、1997 年
- 4) 土木学会編『土木用語大辞典』技報堂、p.1236、1999 年
- 5) 文献 4) p.1238
- 6) 小松茂美『一遍上人絵伝』中央公論社、p.272、1978 年
- 7) 新村井出編著『広辞苑』株式会社岩波書店、p.1525、1997 年
- 8) 文献 8) p.1539
- 9) 佐伯彰一『橋梁用語辞典』山海堂、pp.172、176、1997 年
- 10) 文献 4)、p.1267
- 11) 文献 2) p.222
- 12) 大分県教育委員会、宇佐市教育委員会提供資料
- 13) 『虎溪山永保寺』永保寺、pp.12-14、1998 年
- 14) 矢野平兵衛「勅願所美濃国虎溪山永保寺絵図」明治 14 年 (多治見市提供資料) 多治見市、1881 年
- 15) 太田博太郎『禅寺と石庭』小学館、p.214、1969 年
- 16) 『栗尾山満願寺』満願寺、出版年不明
- 17) 穂高町教育委員会提供資料
- 18) 穂高町教育委員会提供資料
- 19) 『史跡高松城跡保存修理工事報告書』高松市、1971 年
- 20) 伊東孝「屋根のある橋」『Aqua』積水化学工業 (株)、pp.26-31、No.13、1994 年
- 21) 伊東孝「木造屋根付き橋」『フロント』Vol.12-2、(財)リバーフロント整備センター、pp.69-72、
- 22) 文献 20) pp. 26-30。文献 2) pp. 211-212、河辺村提供資料
- 23) 河辺村提供資料
- 24) 新湊市提供資料